



天上の楽園アヤメ平の歴史

アヤメ平は1950年代後半、多くの登山者が訪れ、湿原が踏み荒らされ、約1haが裸地になりました。湿原の荒廃の拡大を防ぐために、1964年より木道を敷設し、植生回復作業に取り組んでいます。2009年から回復が遅れている部分を対象に、新たな方法を取り入れ作業を行っています。

過去の植生回復作業（1969～2008年）



現在の植生回復作業の方法（2009年～現在）

過去の植生回復作業では、ミタケスゲのみの播種^{※1}で行いましたが、一定の効果があったものの定着しない箇所もありました。そこで、定着できなかった裸地に、ミタケスゲのみでなく、多くの植物の種をあつかい、ミズゴケを散布する方法に変更して作業を行いました。

さらに、水が溜まる凹地には盛土を行い、種子とミズゴケの流出と乾燥を防ぐため、枯れたヌマガヤなどの刈草で作業地を覆いました。

植物の定着率が悪い箇所の特徴

- 泥炭の流失で凹地になった箇所（滞水や過湿、乾燥、排水が不十分な箇所）
- 乾燥し粉状になった泥炭が流れ込む箇所
- 軽石が露出する箇所など

使用した植物



凹地に盛土をする



ヌマガヤの刈草で覆う



2016年の作業区（2019年撮影）

明らかになりつつあること

作業区では、3年ほどの短期間で植生が大幅に回復することが確認できました。どの作業区もミズゴケの定着がとても重要で、定着すると植物の出現種数・植被率^{※2}が格段に上がることが分かってきました。このことから湿原の生態系についてはミズゴケが欠かせないキーストーン種^{※3}として位置づけられると認識しています。

さらなる課題

ニホンジカの踏み付けによる攪乱の対策が必要になってきています。

※1 播種（はしゅ）・・・種を播（ま）くこと
 ※2 植被率・・・全体の面積から植物が覆う割合のこと
 ※3 キーストーン種・・・生態系のバランスに大きな影響を与える種のこと